

### 3 「うらほろスタイル推進地域協議会」【浦幌町】



「地域への愛着を育む事業」「子どもの思い実現事業」「農村つながり体験事業」「若者のしごと創造事業」の4つプロジェクトを通して、浦幌の未来を担う子供たちが夢と希望を抱けるまちを目指して活動しています。



プロジェクト①「地域への愛着を育む事業」



プロジェクト②「子どもの思い実現事業」

地域に住み続けたいと思う  
子供が育まれるかどうか  
それを育むのは、  
私たち大人の役目です。



プロジェクト③「農村つながり体験事業」



プロジェクト④「若者のしごと創造事業」



## 初代会長 近江 正隆さん



Q : 「うらほろスタイル」とは？

A : 学校と地域が一体となる取組プロジェクトで、子供たちにバトンをタッチする、子ども達が今いる社会に対して、夢と希望を抱けるまちづくりというのを目指しています。ふるさと教育みたいな事業とか、4つの事業があって、それぞれに主体があるんです。それを下支えしているのが「うらほろスタイル推進地域協議会」。裏方ですね。

Q : 「うらほろスタイル」に関わった経緯は？

A : 当時、自分がやっていたNPO活動に関わってくれる先生がいて、ちょっとした話の中から、「総合的な学習の時間」の中で、町の魅力に触れて、町を知って、町が元気になるっていう枠組みをやってみたいって提案されたんですよ。それで、コーディネートで関わらせてもらうことになったんだけど、その中でびっくりしたのは、原生花園とかに連れて行ったら、3分の2くらいが初めて来たって（笑）。それで、「ないものねだりをするんじゃなくて、地域にもこんなに素晴らしいものがあったんだ、なかったんじゃなくて、知らなかっただけなんだ」っていうのを共有したんですよ。やってるうちに、子供たちのモチベーションも上がってくるわけですよ、なんか浦幌すごいかもしれないって。で、一年間のまとめで高校生がしゃべったのが、「高校はなくなってしまったけども、こういう町に生まれ育ったことを誇りに思いたい」って。その時、みんな化学反応が起きちゃったんだよね。

Q : プロジェクト4「若者しごと創造事業」について教えてください。

A : 活動を5年間続けてきて、結果として新成人の子が「住み続けたい」と。これは、我々が望んできたこと。ただ、残るためには仕事がない。これは、ちょっとまいったなど。こんな風に愛着が生まれて理想の形になっているのに、そこが課題か、みたいな。官も民も関係ない。結果として、出来ないかもしれないけど、チャレンジしないとイケないかなってということで、色々な切り口でアドバイスとか力とか借りながらやっています。例えば、企業創業するためにはどんな力が必要なのか、課題発見、解決的な力を高校生に身に付けさせるのもひとつの手段なのかなど。これからも、徹底的に子供を軸にして、「地域の未来づくり」を進めていきたいと思っています。

## インタビューを終えて（生涯学習課：久保 大輔）

「地域を担う子供たちを大切に思う気持ち・・・」

そこには、大人達が思いをひとつに、子供たちを守り育てる思いと使命を感じさせる姿がありました。浦幌を守り続けてきた大人達が、そこに住む子供たちに、暮らしと共にある郷土の豊かな自然と地域の生活を支えてきた基幹産業の価値を守り伝えていきます。「目的は、地域を担う子供たちにバトンを渡すこと。そのための手段として組織があり、その過程で、組織を絶えず変化しなければならない。」この考えこそが、住民を巻き込み、活動を持続するポイントだと痛感しました。

詳しくはこちら

